



もくじ
CONTENTS

● 巻頭言…………… P2	● 人事だより…………… P3	● 読者のコーナー…………… P7
● 職場紹介…………… P3	● 病気と治療…………… P4	● 外来診療担当医表…………… P8
● インフォメーション…………… P3	● トピックス…………… P6	● 編集後記…………… P8



北野天満宮 もみじ苑

撮影/2015年11月 第一内科副部長 安威俊秀

ここのらの地名

舞鶴赤十字
病院編
その 42

舞鶴市文化財保護委員
舞鶴地方史研究会会長
加藤 晃様



真名井の清水 [まないのしみず]

まだ涼を求めて、清水めぐり。中筋小の南西にこんこんと湧く、水は清く豊かです。真名井とは飛び切り良い水汲み場の意。細川幽斎さんが田辺城の上水道に引いて、城下町にも提供しました。日本で最古の湧き水の上水道です、たぶん。元は一升という灌漑用水池で、伊佐津から下の田をうるおしています。

大杉の清水 [おおすぎのしみず]

青葉山地の麓に湧き出る名水で、地域に幸いをもたらす湧水なので、大杉神社と祀られています。そばの八百年の大杉は、大蛇が清水を飲んで霊力を得て、三本の杉を巻き締めたと伝えられます。江戸時代の地誌に「清うして甘し」「銀気を帯びているようだ」とあります。地域の人たちが保全活動をしています。

吐月水 [とげつすい]

佐波賀の宮谷神社の赤い鳥居の脇に湧いています。元禄・享保のころ、英明な君主だった田辺藩主三代目牧野英成がたいそう気に入って、茶室を建てて通ったという。後に吐月水と命名されました。ここは枇杷の実の名産地で、江戸時代に惣兵衛さんが摂津国の池田から伝えました。磯清水とも呼ばれました。



災害と高齢者の栄養問題

先日テレビにて「2025年問題」の特集が放映されていました。2025年には人口の5人に1人が「後期高齢者」になるというものです。現在、総務省によれば65歳以上の高齢者人口は3384万人(平成27年9月15日現在推計)で、総人口に占める割合は26.7%となっております。

高齢者の健康を考えると、最近、脳卒中を始めとする疾病のほか、高齢者が要介護状態になる原因として、「認知症」や「転倒」と並んで虚弱(フレイルティ)または、老化に伴う筋肉量の減少(サルコペニア)なども注目されています。

以前、高齢者の疾病予防の観点から、当院でも基本的医療のひとつである栄養管理を、各症例に応じて適切に実施することを目的として、栄養サポートチーム(NST)が活動していることをお伝えしました。

その活動の中でも、食べるための口腔機能維持、誤嚥リスクの低下、活動性の維持、適切な食形態の工夫、水分・栄養量管理などが要点となります。

前回ご報告いたしました、4月14日の熊本地震の発生をうけ4月21日から4月25日まで、主に熊本県嘉島町の体育館内避難所にて当院の医療救護班が巡回診療活動をしてまいりました。(写真1)

災害早期の避難者は日常生活から急性ストレス・食事摂取量不足・活動量低下の状況に突然放り込まれ

ることになります。その避難者に対して、この時期の食べる支援は急性期病院でのNSTに通じるものがあります。

被災地での続発症として頻度が高いものに話題となりました血栓症(エコノミー症候群)のほかに災害後肺炎があります。肺炎予防にはズバリ、口腔ケア、十分な水分・栄養摂取、運動の3つが要点とされています。その体育館では2人の歯科医師による診療(写真2)、またフロアにはマッサージを受けるコーナー(写真3)も設けられており、肺炎予防をはじめとする避難所続発症予防に対する確実な効果を認識しつつ、社会貢献に対する確固たる信念に基づいて行動されているのが手に取るようにわかりました。

また一方では、巡回診療をする中で涙する避難者の方も多く、生きる気力を根底から奪ってしまう災害の恐ろしさを改めて認識させられた次第です。

「百舌鳥の高鳴き75日」のことわざ通り、その鳴き声が聞こえはじめたという便りが全国から聞こえてくる時期になりました。

熊本地震のみならず、今年はさらに台風などの災害により被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地等におきまして、救援や復興支援などの活動に尽力されている方々に深く敬意を表し、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



写真1



写真2



写真3

舞鶴赤十字病院理念

赤十字理念「人道・博愛」のもと、一人ひとりにやさしさと思いやりをもって、いのちと健康、尊厳を守り、地域医療に貢献します。

基本方針

- 1 地域医療の中心的役割を果たすために、救急体制を整備し、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の中核病院として、他の医療・保健・福祉施設と協働し、地域医療連携の推進に努めます。
- 3 赤十字の使命である災害救護に貢献します。
- 4 健全で合理的な病院経営に努めます。
- 5 快適な医療・療養環境の整備に努めます。
- 6 職員は常に研修・研鑽に努め、病院はこれを支援します。



人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

こんにちは

職場紹介 回復期リハビリテーション病棟です!



● 文 病棟師長 井上 優子
いのうえ ゆうこ

回復期リハビリテーション病棟は、主に整形外科術後患者さんと、急性期治療を終えられた脳疾患患者さんが入院されています。術後のリハビリや、病気の後遺症で言語や四肢に不自由があり、日常生活に支障をきたした患者さんの機能回復を支援する病棟です。

スタッフには、リハビリを行う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士や福祉と連携をとるソーシャルワーカー、患者さんの日常生活支援を行う介護福祉士、そして患者さんと医療スタッフをつなぐ看護師が在籍しています。入院中は、患者さんや御家族を含めた話し合いの場を随時設け、みんなで目標設定を確認し合いながらリハビリを支援しています。みなさんが笑顔で退院できるその日まで、スタッフ一丸となって頑張っています。

私たちを見かけたら声をかけてくださいね!



Information インフォメーション

平成28年度 糖尿病教室予定 会場：舞鶴赤十字病院 東館1階講堂

お問合せは 医療社会事業課／健診センター (TEL 0773-75-1920) まで

毎月第3水曜日
13時30分から

月日	内容「テーマ」	担当者
11月9日(水) 《第2水曜日》	糖尿病網膜症「糖尿病と目の関係」	視能訓練士
	糖尿病の療養生活「健康寿命をのばす生活」	認定看護師
12月21日(水)	検査データ「自分の検査データを見てみよう」	検査技師
	食事療法「検査データを改善するための食事のコツ」	管理栄養士
1月18日(水)	運動療法「どんな運動がいいの?」	理学療法士

舞鶴赤十字病院では、定期的に医師や看護師等による糖尿病教室を行っております。当院に通院されていない方でも結構です。よいコントロールを続けるためには是非ご参加ください。
※本年度は食事体験の実施はありません。ご了承ください。
※都合により会場・時間変更になる場合があります。

地域医療連携課からのお願い

受診の際は「紹介状」をお持ちください

当院は200床未満の病院です。保険診療上、紹介状(診療情報提供書)の提示がない場合でも他施設で請求される「保険外併用療養費」について、当院ではお支払いの必要はありません。

しかし、他の医療機関での受診歴(通院・入院)がある場合は、紹介状の提示をお願いしています。

紹介状には現病歴(現在罹患している病気の症状や治療経過)、過去の既往(かかった病気)、薬剤投与の内容、検査データなどあらゆる情報が記載され

ています。

診察の前に持参していただいた紹介状からいろいろな診療情報を得ることで、よりスムーズな診療へつなげることができます。他の医療機関へ問い合わせる機会も省け、外来待ち時間の短縮、また、二重投薬・二重検査を防止することにもつながります。

受診時には可能な限り紹介状をお持ちください。

医療社会事業部 地域医療連携課長 佐藤 裕治
さとう ゆうじ



人事だより

Personnel Changes

【退職】

看護師 武田 紀子 平成28年7月31日付
看護師 橋本 沙織 平成28年7月31日付
看護助手 天野 明子 平成28年8月31日付

【採用】

臨時理学療法助手 塩見 幸子 平成28年7月25日付
看護師 浅井 早苗 平成28年8月1日付
臨時看護師 太田 康子 平成28年8月1日付
臨時主事 西田 真優子 平成28年8月1日付

看護助手 山本 朱美 平成28年9月1日付
看護師 菱井 美佳 平成28年10月1日付
臨時主事 荻野 侑実 平成28年10月17日付

「緩和ケア」って!?

がんと診断されたその時から行う、患者さんやご家族の苦痛や悩みを和らげるケアです。自分らしくより良く過ごしていただけるよう“舞鶴赤十字がんサポートチーム”が全力でお手伝いします。お気軽にご相談ください。



● 文 伊藤 範朗
いとう のりお

外科副部長
緩和ケア研修会
指導者講習修了

現在日本では10人のうち5人が一生に一度は“がん”と診断され、そのうち3人がそれにより亡くなっているといった状況です。高齢化、食生活等の欧米化、身の回りにあふれる発がん性物質など、いろいろな理由が言われており、増加の一途です。そこで、積極的にがんと闘っていく治療（手術や抗がん剤など）と並んで緩和ケアの重要性が認識されだしてきています。しかしながら、まだまだ一般的には広く認知されていないのが現状かと思えます。

そこで今回の「病気と治療」では緩和ケアについての概説と“舞鶴赤十字がんサポートチーム”の紹介をしていこうと思います。

“緩和ケア”って?

皆さんは緩和ケアについてどんなイメージをお持ちでしょうか。

緩和ケア自体知らない、という方もおられるでしょうし、ご存知だったとしてもターミナルケアや終末期医療、看取りの医療などをイメージされる方が多いのではないかと思います。しかし、最近の緩和ケアの世界では、がんと診断された時から関わっていく、という流れになってきています。

これは2002年WHO（世界保健機関）によって「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し和らげることで、クオリティ・オブ・ライフ（生活・人生の質）を改善するアプローチである。」と定義されたことによるものです。WHOの定義では生命を脅かす疾患となっていますが、

マンパワー的なこともあり、一般的にはがんの患者さんにのみ関わっているとところがほとんどだと思います。ここでもがんに限って話を進めさせていただきます。



“苦痛”って?

病気を患っている間の様々な苦痛として、からだの痛みはもちろん、その他のからだの症状や気持ちのつらさ、そして日常生活を送る上での色々な悩みなど、が考えられます。それらの苦痛（全人的苦痛）に対して様々な職種の専門家がチームとして協働して治療などの検討を行っていくのが“緩和ケア”です。当然、積極的な治療がなくなっただけからのほうが苦痛や悩みが増えるでしょうし、緩和ケアとしてそういった患者さんと接する機会が多くなります。しかし、病気のどの段階でもひとりひとり色々な苦痛や悩みはありますので、それに対処していくのが緩和ケアということになります。

例えば、

- この痛み何とかならないの？
- 抗がん剤の副作用がしんどくて
- 告知されてから憂鬱で…
- これからの治療費どうしようか
- 体力も落ちて身の回りのことをどうしようか
- 残された家族のことはどうしようか



などの色々な苦痛に対して様々な職種で対応策を検討していきます。

わかりやすく一言でいうと、**自分らしくより良く** **過ごしていけるよう、そして、がんになったのは不** **運だけれど不幸ではない、と言えるような生活を送** **れるよう、色々な視点からお手伝いするのが** **“緩和ケア”** だと言えます。

なんとなく緩和ケアに対するイメージが出来たでしょうか。

“舞鶴赤十字がんサポートチーム”

それでは“舞鶴赤十字がんサポートチーム”を紹介させていただきます。

みなさんは当病院でも緩和ケアチームがあるのをご存知でしょうか？あまり表舞台に立つことはないのですが、これまで地道に活動し主治医の先生に様々な提案を行ってきました。この2年間は、毎週各病棟を周り、カンファレンスを行ってきました。

今年、その緩和ケアチームを“舞鶴赤十字がんサポートチーム”として日本緩和医療学会にチーム登録致しました。各メンバーの専門分野だからこそ提案できること、逆に専門外だからこそ自由な発想で思いつく提案など、主治医の先生に伝え、皆様のお役に立てるよう努めてまいります。



サポートチームメンバーは以下の通りです。

★伊藤 範朗 (外科医師、緩和ケア研修会指導者講習修了)、★水野 雅之 (がん化学療法認定看護師、外来係長)、★岸本 由美 (外来看護師)、津田 瞳 (3階病棟看護師)、蘆田 久美子 (4階病棟看護師)、★藤田 紘子 (5階病棟看護師)、谷内 好美 (訪問看護師)、★岡田 智行 (薬剤師)、高岡 祥子 (作業療法係長)、★西村 友美子 (管理栄養士)、★眞下 麻衣子 (医療社会福祉士)、若槻 翔 (主事)

※★は緩和ケア研修会 (厚労省が進めている医師対象の緩和ケアについての研修会) を修了した者です。



最後に…

がんで闘病中の皆さま、お困りのことはございませんか？

告知されたばかりの方、治療方針を決めていかなければならない方、手術で無事取り切れた方、手術が出来なくて抗がん剤治療をしている方、不運にも再発してしまった方、限られた時間を懸命に過ごしておられる方、どの方も様々な状況で病氣と闘っておられることと存じます。

何かお困りのこと、気がかりなことがありましたら、お気軽にスタッフに相談頂ければ幸いです。われわれ“舞鶴赤十字がんサポートチーム”が縁の下の力持ちとして全力でサポート致します。





正面玄関改修工事完了のお知らせ

調度課長 中口 真一
なかぐち しんいち

9月16日(金)から9月26日(月)まで行っておりました正面玄関改修工事が、関係各業者さんのご協力のもと無事に完了いたしました。

改修工事期間中のみならず、長期にわたり従前の回転ドアの閉鎖期間中におきましては、ご来院の皆様にご迷惑・ご不便をお掛けし申し訳ございませんでした。

病院の顔として新しくなった正面玄関は冬場の防寒対策を重視し、大きめの風除室を設けた設計となっております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

地域包括ケア病棟のご案内

医療社会事業部 地域医療連携課長 佐藤 裕治
さとう ゆうじ

頭に“地域包括”とつく言葉「地域包括ケアシステム」「地域包括支援センター」「地域包括ケア病棟」等々、巷ではよく耳にされているのでは?と思います。それぞれは高齢者が地域でよりよい人生を送るために必要な事業でありサービスであります。その中で「地域包括ケア病床」は国が進める機能分化の第一段階として新設された病床で、急性期医療を終了し、すぐに在宅や施設に移行するには不安のある患者さんに対し、在宅復帰に向けた診療・看護・リハビリを行なう事を目的としています。



当院は病床数198床の小規模な病院ですが、地域に根ざした「完結型医療の提供」をモットーに急性期から在宅まで途切れない医療を提供しております。急性期病棟はもちろんのこと訪問看護ステーション、リハビリテーションセンターの開設、回復期リハビリテーション病棟の運用、そして平成27年12月には「地域包括ケア病床」を50床に増床し「地域包括ケア病棟」として運用を開始し、現在も多くの方にご利用いただいております。

それでは当院の地域包括ケア病棟について簡単に説明させていただきます。

地域包括ケア病棟とは

急性期の治療が終わられた後、退院後の在宅療養・生活がスムーズに行えるよう、在宅復帰にむけて医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ・相談員(医療ソーシャルワーカー)等が協力し、患者さんやご家族への在宅支援(相談・準備等)を行う病棟です。

対象となる患者さんは

急性期治療が終了した患者さんで、在宅または介護施設への復帰を目指しておられる方であれば60日を限度としてご利用いただけます。

- ① 入院治療により状態は改善したが、当院にてもう少し経過観察が必要な方。
- ② 入院治療により病状が安定し、在宅での生活に向けて準備が必要な方。
- ③ 在宅療養中で一時的な入院が必要な方。



以上のように入院中の方だけでなく、在宅で療養中の方もご利用いただけます。

入院費については

「地域包括ケア入院医療管理料」として定められた料金がかかります。

一般病床とは違い、特に定められたもの以外の注射・投薬料・リハビリ・処置・検査料等は定額に含まれます。

よくある質問

Q1：包括ケア病棟に入院できる対象の疾患は何ですか？

A1：決められた対象疾患はなく、急性期の治療が終わり、在宅復帰（施設調整）のためリハビリをしたい方や、在宅介護の練習、在宅で介護をしている方が休養を取るための一時入院等が対象となります。
※透析の方、人工呼吸器がついている方の受け入れはできません。

Q2：酸素や経管栄養をしている方は対象ですか？

A2：酸素や経管栄養をしても、60日以内で退院が見込まれる方は対象となります。
※在宅酸素・経管栄養・人工肛門の方も受け入れ可能です。

Q3：60日以上を超えた入院は可能ですか？

A3：原則できません。最大60日までとなっております。医師の判断により入院期間は決めさせていただきます。



Q4：地域包括ケア病棟退院後、もう少しリハビリをしたい場合、再入院は可能ですか？

A4：状況により対応できる場合もありますのでご相談ください。

Q5：地域包括ケア病棟でできる治療・検査は何ですか？

A5：積極的な治療・検査はありません。入院時に簡単な血液検査等行う場合もあります。一般病棟で行うような高額な医薬品の投与や特殊な検査・手術などには対応できません。（医師の判断になります）

Q6：施設と地域包括ケア病棟の違いは何ですか？

A6：施設は介護保険が適応となりますが、地域包括ケア病棟は、医療保険適応となります。入院費は定額で、リハビリテーション・投薬料・注射料・簡単な処置料・検査料・画像診断料・入院基本料の費用が含まれています。

Q7：ショートステイの入所待ちですが、待機中の受け入れは可能ですか？

A7：施設への入所待ちの方の受け入れは可能です。最大60日で退院になります。



対象となるのか、利用できるのか等、お気軽に地域医療連携課までお問い合わせください。「地域包括ケア病棟」を皆様の『在宅に最も身近な病床』として是非ご活用ください。

イキイキ 読者のコーナー

読者の皆様からの、短歌、俳句、川柳、詩、写真などを掲載させていただくページです。投稿ならびにお問合せは、医事課 升本までお願いします。なお、作品には、住所、お名前、電話番号もお書き添えください。



酷暑耐えがむしゃらに除草
我は八十路
暮れなずむ 茜の空や ござれ萩
市内桑飼上 佐藤 英子 様

俳句 「作者50音順」

夕されば庭の夕顔ひらき初む 友と見てをり昨日も今日も
もらひ未し白萩一枝かごに活け 独り居の部屋ほのかに温し
市内紺屋 中嶋 洋子 様

外つ国の選手のメダルがんばりも称えたきもの 今日終戦忌
直島に出会し犬のなっちゃんは今日も誰かに撫でられているか
市内余部上 瀬野 幸子 様

病床の 七夫によりそい窓辺にて眺めし月は あの日のままに
満月の 光は急に遮えざられ 詠草の友は 永久にかえらじ
市内桑飼上 佐藤 英子 様

真剣なる眼差しもて補助輪のとれし自転車をこぎゆく曾孫
柿の木に止まれる蟬を捕へむとぬき足さし足の曾孫の後姿
市内京田 上羽 玉枝 様

短歌 「作者50音順」

舞鶴赤十字病院 外来診療担当医表

平成28年9月1日現在

診療科	月	火	水	木	金	受付時間	診察開始時間	備考		
内科	午前	1診(予約) 2診(予約) 3診(新患)	安威 米山 米山	西田和 西田和 安威	西田和 西田和 西田和	西田和 米山 西田和	予約制 // 7時45分~11時30分	8時45分~ // //	1診・2診は予約診察 3診は新患及び予約外診察	
	専門外来(予約)	《糖尿病外来》 福田	《療養指導外来》 糖尿病看護認定看護師	《禁煙外来》 担当医	《フットケア外来》 皮膚・排泄ケア認定看護師	《フットケア外来》 糖尿病看護認定看護師	予約制	月曜 10時30分~ 火曜 9時~ 水曜 14時~ 木・金曜 9時~	《糖尿病外来》 予約受付は平日の14時~16時(電話予約可) 《療養指導外来》 初回は外来を受診し予約(電話予約不可) 《禁煙外来》 診察は隔週、予約受付は平日の14時~16時(電話予約可) 《フットケア外来》 初回は外来を受診し予約(電話予約不可、木曜は隔週)	
	消化器内科	午前	2診(予約) 3診(新患) 4診(予約)	酒田 藤井/雨宮(午前)(午後)	酒田 加賀谷	加賀谷 藤井/雨宮	予約制 7時45分~11時30分 予約制	8時45分~ // //	2診・4診は予約診察、3診は新患及び予約外診察(受付は内科3診で)木曜と金曜の3診は予約と予約外の混合診察 金曜の担当医は隔週で交代	
神経内科	2診(予約)	堀尾		徳田		予約制	火曜 10時~ 木曜 10時30分~	予約受付は平日の14時~16時(電話予約可、完全予約制)		
小児科	午前	岡野	岡野	岡野	岡野	岡野	7時45分~11時30分	8時45分~	慢性疾患外来・予防接種は完全予約制 《慢性疾患外来》 電話予約不可(外来受診後医師の指示による) 《予防接種》 電話予約可(申込、変更は平日8時45分~11時30分) 予防接種希望で当院受診歴のない場合は平日8時45分~11時30分に新患受付に来院の上、小児科外来で予約	
	午後(予約)	慢性疾患外来	予防接種		予防接種	慢性疾患外来	予約制(備考参照)	14時~		
外科	午前	1診 2診	矢野裕 伊藤	山下/木/下	加藤	加藤	《乳腺内分泌外来》 藤原 矢野裕	7時45分~11時30分 //	8時45分~ //	乳腺内分泌外来は完全予約制 火曜の担当医は隔週で交代
	午後	専門外来(予約)				《肛門外来》 加藤 《乳腺内分泌外来》 藤原 《ストーマ外来》 皮膚・排泄ケア認定看護師	12時~15時 予約制	13時30分~ 9時~		
	整形外科	午前	1診(新患) 2診(予約) 3診(予約) 4診(予約)	片山(新患15人まで) 仲川(新患) 中瀬 松木	松木 仲川	中瀬/仲川(1・4週)(2・3・5週) 片山/中瀬(1・3・4週)(2・5週) 松木(1・2・4・5週)	松木 片山 仲川	7時45分~11時30分 // 予約制 //	8時45分~ // // //	
	午後	2診(予約) 3診(予約)		片山/中瀬(1・3・4週)(2・5週) 松木(1週)			// //	// //		
皮膚科	午前 午後	辻井 辻井	辻井 隔週褥瘡回診	辻井 手術	辻井 手術	辻井 辻井(予約)	7時45分~11時30分 12時~16時	8時45分~ 14時30分~	火曜・水曜・木曜の各午後は回診及び手術のため外来診察はなし	
泌尿器科	午前	中河		北森	井上		7時45分~11時30分	月・水曜 8時45分~ 木曜 9時~		
眼科	午前	1診 2診	八木 堀内	堀内	八木	八木	担当医	7時45分~11時30分 //	8時45分~ //	1診・2診ともに予約と予約外の混合診察 午後の診察、検査、治療などは原則として予約制 コンタクト外来は第二、第四木曜のみ(新患受付可)
	午後	検査レーザー		検査	コンタクト外来		12時~14時30分(コンタクト外来のみ)	13時30分~		
耳鼻咽喉科	午後	大西				中村	12時~15時30分	月曜 14時~ 金曜 14時15分~	嚥下評価は要予約(予約受付は月曜と金曜の14時~16時、電話予約可)	

※予約の有無に関わらず受付が必要となりますので、必ず診察券をご持参ください
(初診の方は、新患窓口で診察券を作成しお渡します)

※予約変更のお電話は平日の14時~16時をお願いします

編集後記



朝夕はめっきり涼しくなり、過ごしやすくなりましたが、みなさまいかがお過ごしですか？
今年の夏は暑い日が続きましたが、雨も多く、スタッフとして関わった全国高等学校野球選手権京都大会は日程の変更などで例年になく混乱しました。雨の影響で敗退したチームも多く、泣き崩れる選手を見て、最高の舞台で試合をさせてあげたかと思う日が多かったように思います。
そんな夏が終わり、秋になると新チームで臨む秋季大会が始まりました。まだまだどのチームも戦力的には十分とはいえないようですが、これからどんな成長をされるのか楽しみでもあります。
ということで今年も私はスポーツ観戦の秋になりそうです。
みなさまもそれぞれに秋を楽しんでください。

M・Y

読者の皆様へ

紅鶴編集チームでは、皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。官製はがきか、病院備付けのご意見箱に「紅鶴について」とお書き添えの上、お寄せください。どんな些細なことでも結構です。よろしくお願いたします。



紅鶴設置場所のご案内

当院外来受付に設置しております。数に限りがございますので、予めご了承ください。なお、当院ホームページから過去分も含め、PDFでご覧頂くことも可能となっております。

紅鶴 第81号

題字 名誉院長 横田 敬
発行所 舞鶴赤十字病院
舞鶴市宇倉谷427 TEL.0773-75-4175
ホームページアドレス <http://maizuru.jrc.or.jp/>
発行日 平成28年(2016年)10月26日

発行責任者 院長 西田 和夫
編集 大田 悦子、小島あかり、佐藤 史昌、里見紀久子、竹内 隆志、谷内 好美、升本 陽介、水嶋 祐史 (50音順)
印刷 株式会社コザイ印刷 TEL.0773-75-1475